

神戸 スポーツはじめ物語

高木應光

「4年に一度じゃない。一生に一度だ。」

いま、日本でラグビーワールドカップが開催されています。

夏季オリンピック、サッカーワールドカップと合わせて世界三大スポーツイベントといわれるラグビーワールドカップ。1987年、第1回大会があり、今回は9回目にしてアジアで初めてのW杯です。9/20(金)の開幕戦、日本vsロシア戦では30-10で快勝、好スタートを切った日本。2試合目の9/28(土)、アイルランド戦でも19-12で勝利しました！アイルランドは世界ランキング2位の強豪。序盤は先制されましたが、ばっちり逆転していくブレイブブロッサムズ、とてもかっこよかったです！今回の大会は全国12箇所の会場を使っています。関西では東大阪市の花園ラグビー場と神戸市の御崎公園球技場が選ばれ、それぞれ4戦ずつ行われます。

日本でラグビーが始まったのは、1899(明治32)年のこと。慶應義塾大学で英語を教えていたエドワード・ブラムウェル・クラーク先生が学生に広めたのがきっかけとされています。神戸では、1876(明治3)年12月8日、英国のモデスト号チームとK R & A C(神戸レガッタ&アスレティック・クラブ)による対戦が行われています。神戸には1868(明治元)年～1899(明治32)年までの約30年間、神戸外国人居留地がありました。多くのK R & A Cメンバーたちが住み、貿易などに従事した区域です。開港間もない神戸でゲームが可能だったのは総合型地域スポーツ・クラブK R & A Cがあったから。1902(明治35)年にはY C & A C(横浜クリケット&アスレティック・クラブ)との対抗戦「インターポートマッチ(港都戦)」が毎年行われるようになり、ラグビーも本格的なものとなりました。横浜のY C & A Cが「日本ラグビーの祖」慶應を醸成する土壌となったのに対し、関西のそれはK R & A Cでした。京都の第三高等学校や同志社など、関西の学生が居留地の東に位置する東遊園地でK R & A Cと試合を行いました。そして試合のあとには、交歓会！最近では「アフターマッチ・ファンクション」とよばれ、軽食とビールなどのドリンクで歓談するそうです。明治の時代も、両チームとレフリーが一堂に会し、敵・味方ではなくラグビー仲間として親睦をはかりました。当時はまだ珍しいものだった紅茶やケーキ、ビールが振舞われ、会話だけでなくダンスや合唱などをして楽しんだそうです。試合中、体を激しくぶつけ合うラグビーは相手へのリスペクトが必須。ラグビー独特の文化といえる「ノーサイド」精神を示す、大切な伝統行事です。ジュニアの試合でもソフトドリンクで乾杯が行われるそうですよ！

神戸には1928年創部の神戸製鋼コベルコスティーラーズというチームがあります。「ミスターラグビー」といわれ、一時代を築いた平尾誠二選手も在籍していた名門で、今大会、神戸製鋼からは4人の選手が日本代表に選ばれています。10/5(土)サモア戦、10/13(日)スコットランド戦を控えた日本代表。まずプールAを勝ち抜いて、ぜひ準々決勝、準決勝へと進んで欲しいですね！

RUGBY WORLD CUP
JAPAN 2019